

未来に向かって 自ら羽ばたける北っ子！

～考え動く 人とつながる 未来を創る～

夢を語れる幸せ



6年生 ランチルームの最後の給食

6年生が卒業の時を迎えました。コロナによる休校から小学校生活がスタートした学年です。小学校生活の前半は、学校行事が制限され、マスクをしながらの生活でした。今から思えば、本当に大変な時間だったと振り返ります。しかし、PTAの広報紙を読むと、そんなスタートだったにも関わらず、伸び伸びと明るく夢を語り巣立っていってくれることを本

当に嬉しく思います。これも保護者の皆様、地域の皆様の温かいご支援があつてのことです。心より感謝いたします。

今年、修学旅行先を広島に変更しました。世界で唯一の被爆国である日本にいるのなら、やはり、一度は訪れるべき場所であるとの思いからです。

本当に様々な国から多くの人達が訪れている中、6年生の子達は、人混みや初夏の暑さと戦いながら、懸命に資料館を見学し、ガイドさんの話に耳を傾けてくれました。

また、7月には、イランから帰国されていた、テヘラン日本人学校長の西田隆之先生に来ていただきお話を聴きました。自宅のベランダから撮られた、砲弾が飛んでいく画像の生々しさに驚き、自分たちの暮らしとあまりにもかけ離れた現実を実感しました。昨年、来ていただいた時には、美しいイランの歴史建造物や穏やかな人々の暮らしについて教えていただきました。猫が好きで旅人に親切な人達だと。美しいテヘランの街と心優しい現地の人達の今を思うと本当に心が痛みます。

『ペンは剣よりも強し』という言葉があります。人と人との争いは力では解決できない。言葉にこそその力がある。飛躍しますが、子ども達の日常でも同じことが言えるでしょう。

子ども達が、人とつながり関わるために、言葉の力を身につけていけるようにこれからも尽力していかなければならないと改めて思います。そして、子ども達が、伸び伸びと夢を語れる環境を整えていけるよう今後もご協力よろしくお願ひします。

劇団『水彩パルチザン』さん来校

2月20日、劇団「水彩パルチザン」の方々をお招きして、講演会を行いました。将来のことを考え始めている6年生の感想を紹介します。



- ◆私は2つ将来の夢があつて、2つとも同時にできないし2つとも同じくらい大好きだから、どちらかをあきらめようと思っていたけど、あきらめなくていいとわかりました。◆自分がやりたいことを自分で決めていいんだとわかりました。
- ◆話を聴いて、今自分があきらめていた将来のことに少し勇気が出ました。◆いろいろなことにふれることによって自分の未来につながってくることを、そして、プロ以外にもたくさん選択肢があつて、それを選ぶのは自分だということがわかりました。◆将来のことを考えながら過ごすのが大切だとわかりました。自分も自分の色を探しながら過ごしていきたいと思ひます。◆大切なことは自分や人の色を見つけて分かり合うことだと思ひました。◆自分の好きなことを続けようと思つたらプロしかないと思ひていたけど、スタッフやアマチュアがあると知つて、好きなことを続けようと思ひました。◆夢はあきらめなかつたら、なんでもできると思ひました。自分の夢にちょっと近づけた気がする。